

旅館・ホテル営業の構造設備基準

| 項目 | 基準 |
|---------|--|
| 設置場所 | 周囲100mの区域内に、学校・児童福祉施設・社会教育施設等がある場合は、関係機関の意見 |
| | 周囲100mの区域内に、学校・児童福祉施設・社会教育施設等がある場合は、客室等の内部が見通せない設備 |
| 客室の広さ | 一客室の床面積は、七平方メートル（寝台を置く客室にあつては、九平方メートル）以上であること。 |
| 玄関帳場 | 宿泊者との面接に適する玄関帳場、その他代替設備を有すること（緊急時の対応、名簿の記載、客室の鍵の受渡し、宿泊者以外の出入りの確認ができる）（規則） |
| | 宿泊者名簿（氏名・住所・連絡先・その他）を備えること（法） |
| 換気面積 | 換気窓により衛生的な空気環境を十分に確保できる構造であること ただし、これに代えることのできる適当な換気装置がある場合はこの限りではない |
| 採光面積 | 採光窓により自然光線を十分採光できる構造であること |
| 収容定員等 | 収容定員に応じた十分な広さを有し、客室ごとに室名・室番号と定員数を表示すること （目安）寝台なし：1人あたり3.3㎡ あり：1人あたり4.5㎡ ※通常、睡眠や休憩等の用に供する部分 |
| 洗面所 | 洗面所は、清掃を容易に行うことができる構造であること |
| 浴室・入浴施設 | 浴室は、清掃を容易に行うことができる構造であること |
| | ろ過器は、浴槽ごとに設置するよう努め、その1時間当たりの処理能力は、浴槽の容量以上であり、そのろ材は、十分な逆洗浄を行うことができるものであること |
| | 集毛器は浴槽水をろ過器に送るための配管の途中に設けること |
| | 浴槽における原水の注入口は循環配管に接続せず、浴槽水面の上部から浴槽に落とし込む構造であること |
| | 循環水は浴槽の底部に近い部分から補給される構造であること |
| | 打たせ湯及びシャワーが設置されている場合は、循環水を用いない構造であること |
| | 貯湯槽（原水を貯留する水槽）は完全に排水できる構造であること |
| | 気泡発生装置等が設置されている場合は、点検、清掃及び排水が容易に行うことができ、かつ、その空気取入口から土ぼこりが入らない構造であること |
| | 浴槽からあふれ出た湯水及び回収槽内の湯水を浴用に供しないこと ただし、オーバーフロー環水管及び回収槽の内部の清掃及び消毒を頻繁に行うとともに、レジオネラ属菌その他の病原菌が繁殖しないよう回収槽内の湯水の塩素消毒等を行う場合は、この限りでない。 |
| | 水位計は配管内を洗浄し、及び消毒することができる構造又は配管等を要しない構造であること |
| | 配管内の浴槽水が完全に排水できる構造であること |

旅館・ホテル営業の構造設備基準

| 項目 | 基準 |
|-----------------|--|
| | 調節箱は、清掃しやすく、かつ、薬剤注入口を設けるなど塩素消毒等を行うことのできる構造とすること |
| | 屋外に浴槽が設置されている場合は、その浴槽水が配管等を通じて屋内の浴槽水と混じらない構造であること |
| 便所 | 便所は、適当な数の便器を備え、換気口又は換気装置を設けること 便所の位置は、井戸及び調理場（配膳室を含む）から適当な距離を有すること（目安）汲み取り式の場合は5m以上 |
| 全体 | 適当な換気、採光、照明、防湿及び排水の設備を有すること |
| | 宿泊者の需要を満たす適当な規模の入浴施設を有すること（近接して公衆浴場がある等入浴に支障を来さないと認められる場合はこの限りではない） |
| | 宿泊者の需用を満たすことができる適当な規模の洗面設備を有すること |
| | 適当な数の便所を有すること |
| 衛生措置の基準（その他の措置） | 営業従事者の数に応じて適当数の私室を設けること |

旅館・ホテル営業の衛生措置の基準

| 項目 | 基 準 |
|--------------|--|
| 客室に関する措置 | 軒、ひさしその他著しく換気及び採光を妨げるものがある場合は、換気窓及び採光面の増加その他適当な方法により、換気及び採光を行なうこと |
| | 土地の状況、季節その他の関係で湿度が高く人の健康を害するおそれがあると認められる場合は、床下にコンクリートたたきその他適当な防湿方法を施すこと |
| | 空気調和装置、暖房装置及び冷房装置は、定期的に保守点検するとともに、故障、破損等がある場合は速やかに補修することにより、適切な室内の温度及び湿度を保つこと。 |
| | 直射日光が著しく射入する室は、カーテン、すだれ等で光をさえぎること |
| | 室内に便所、下水、ごみため等の臭気が入らないよう処置すること |
| | くず箱を備え、原則として1日1回以上くずの処分をすること |
| | 室内は、原則として1日1回以上清掃し、必要に応じて消毒を行うこと |
| 便所に関する措置 | 換気窓及び採光窓には、金網その他により昆虫の侵入を防止する設備を施すこと |
| | 清掃及び防臭剤等により便所臭を除去することに努めること |
| | くみ取式大便所の便器には、ふたを備えておくこと |
| | 便器は、常に清潔に保ち、便所の内外は、原則として1日1回以上清掃すること |
| | 用便紙容器を備え、用便紙は、常にじゅうぶんに用意しておくこと。この場合において、水洗式便所にあつては、トイレット専用の用紙を備えること |
| | 便池は、常に遮(しゃ)光し、適時消毒を行なうこと |
| | 水洗式便所には、別に汚物容器を備えること |
| 調理場に関する措置 | 常に衛生的に維持し、定期的にねずみ族及び昆虫の駆除を行うこと |
| | 廃棄物は、処理方法に応じて適切に分別し、処理すること |
| その他の施設に関する措置 | 玄関、ロビー等は、常に清潔に保ち、その見やすい場所に業種別（旅館・ホテル、簡易宿所及び下宿の別）の表示をすること |
| | 洗面所は、宿泊者の利用しやすい位置に設け、常に清潔に保つこと |
| | 廊下は、常に清潔に保つこと |
| | ちり捨て場、下水その他不潔になりやすい場所は、常に清潔にし、適時消毒を行なうこと |

旅館・ホテル営業の衛生措置の基準

| 項目 | 基 準 |
|----------|---|
| その他の措置 | 宿泊者用の寝具は、白布その他の清潔な布でおおうこと |
| | 寝具、貸衣類等は、定員数以上の数を備え、常に清潔に保ち、かつ衛生的に保管する設備を設けること |
| | 敷布、掛布、貸衣類等は、使用者の異なるたびに洗たくすること |
| | 宿泊者の利用する場所は、定期的にねずみ族及び昆虫の駆除を目的とする清潔方法を講ずること |
| | 営業従事者の数に応じて適当数の私室を設けること |
| | 営業従事者は、常に身体及び衣服を清潔に保つこと |
| | 照明設備は、定期的に保守点検するとともに、故障、破損等がある場合は速やかに補修することにより、宿泊者の安全衛生上又は業務上必要な照度を満たすこと |
| | 適当な救急薬剤及び材料を常時備えておくこと |
| | 宿泊者名簿（氏名・住所・連絡先・その他）を備えること |
| | その他知事が必要と認めて指示する措置 |
| 浴場に関する措置 | 脱衣室及び浴室は常に清潔に保つこと |
| | 浴用に供した汚水を下水に流下させる装置を施し、汚水溝は、常に掃除すること |
| | 原水及び浴槽水は、規則で定める水質基準に適合するよう管理すること |
| | 貯湯槽（原水を貯留する水槽）内の原水の温度は、通常の使用状態において、湯の補給口、底部等に至るまで摂氏60度以上に保ち、かつ、最大使用時においても摂氏55度以上に保つこと ただし、レジオネラ属菌その他の病原菌が繁殖しないように貯湯槽内の湯水の消毒を行う場合は、この限りでない。 |
| | 定期的に貯湯槽の生物膜の発生の防止又は除去を行うための清掃及び消毒を行うとともに、温度計の性能及び設備の破損等の確認を行うこと |
| | 浴槽水は、常に満杯状態に保ち、清浄な湯水の供給、循環ろ過、塩素系薬剤による消毒等により清浄に保つこと |
| | 浴槽水は、毎日1回以上完全に取り換えること ただし、連日使用循環水（24時間以上連続して使用している循環水）を使用している浴槽水については、1週間に1回以上定期的に完全に取り換え、浴槽を清掃し、及び消毒すること。 |
| | ろ過器は、浴槽に湯水がある場合は、常に作動させ、1週間に1回以上、逆洗浄して汚れを十分に排出し、生物膜を適切な消毒方法で除去すること。 |
| | 循環配管は、1週間に1回以上、適切な方法で消毒するとともに、おおむね1年に1回以上、内部の状況を点検し、生物膜がある場合は、当該生物膜の除去を行うこと。 |

旅館・ホテル営業の衛生措置の基準

| 項目 | 基準 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|------------------------------------|--|--------------|--|------|------------|------|------------|------|------------|------------------------------------|--|-----------------|------------------|------------------------------------|--|--------|----------------------|-------|-----------|-----------|---------------------------|-----------|---------------------------|
| 浴場に関する措置 | 配管は、その配置を図面等により正確に把握し、不要な配管の除去等必要な措置を行うこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 浴槽水は、塩素系薬剤を使用して消毒し、浴槽水中の遊離残留塩素濃度を頻繁に測定して、1リットル中0.4ミリグラム程度、最大1リットル中1ミリグラムを超えないよう努めるとともに、当該測定結果を検査の日から3年間保存すること ただし、浴槽水の性質その他の条件により塩素系薬剤が使用できない場合、浴槽水の水素イオン濃度指数（pH）が高くこの基準を適用することが不適切な場合又は他の消毒方法を使用する場合であつて、他の適切な衛生措置を講ずるときは、この限りでない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 塩素系薬剤を使用して消毒を行う場合において、循環配管を設置しているときは、塩素系薬剤をろ過器の直前に投入すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 消毒装置は、浴槽に湯水がある場合は、常に作動させ、維持管理を適切に行うこと | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 水位計配管は、1週間に1回以上、生物膜を適切な消毒方法で除去すること | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | シャワーは、1週間に1回以上通水し、シャワーヘッド及びホースは、6月に1回以上点検するとともに、1年に1回以上洗浄し、及び消毒すること | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 集毛器は、毎日清掃し、及び消毒すること | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 浴用に供する湯水は、次に掲げる区分に応じそれぞれ次に定める頻度で定期的に水質検査を行うこと。ただし、塩素系薬剤を用いた消毒を行っていない浴槽水については、その頻度は、1年に4回以上とする。 ア 水道法第3条第9条に規定する給水装置により供給される水を用いない原水：1年に1回以上 イ 連日使用循環水を用いない浴槽水：1年に1回以上 ウ 連日使用循環水を用いた浴槽水：1年に2回以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table><tr><th colspan="2">【原水 水質検査項目】</th><th colspan="2">【浴槽水 水質検査項目】</th></tr><tr><td>1 色度</td><td>5度以下であること。</td><td>1 濁度</td><td>5度以下であること。</td></tr><tr><td>2 濁度</td><td>2度以下であること。</td><td rowspan="2">2 有機物（全有機炭素（TOC）の量）又は過マンガン酸カリウム消費量</td><td rowspan="2">有機物（全有機炭素（TOC）の量）にあつては1リットルにつき8ミリグラム以下、過マンガン酸カリウム消費量にあつては1リットルにつき25ミリグラム以下であること。</td></tr><tr><td>3 水素イオン濃度指数（pH）</td><td>5.8以上8.6以下であること。</td></tr><tr><td>4 有機物（全有機炭素（TOC）の量）又は過マンガン酸カリウム消費量</td><td>有機物（全有機炭素（TOC）の量）にあつては1リットルにつき3ミリグラム以下、過マンガン酸カリウム消費量にあつては1リットルにつき10ミリグラム以下であること。</td><td>3 大腸菌群</td><td>1ミリリットルにつき1個以下であること。</td></tr><tr><td>5 大腸菌</td><td>検出されないこと。</td><td rowspan="2">4 レジオネラ属菌</td><td rowspan="2">100ミリリットルにつき10CFU未満であること。</td></tr><tr><td>6 レジオネラ属菌</td><td>100ミリリットルにつき10CFU未満であること。</td></tr></table> | 【原水 水質検査項目】 | | 【浴槽水 水質検査項目】 | | 1 色度 | 5度以下であること。 | 1 濁度 | 5度以下であること。 | 2 濁度 | 2度以下であること。 | 2 有機物（全有機炭素（TOC）の量）又は過マンガン酸カリウム消費量 | 有機物（全有機炭素（TOC）の量）にあつては1リットルにつき8ミリグラム以下、過マンガン酸カリウム消費量にあつては1リットルにつき25ミリグラム以下であること。 | 3 水素イオン濃度指数（pH） | 5.8以上8.6以下であること。 | 4 有機物（全有機炭素（TOC）の量）又は過マンガン酸カリウム消費量 | 有機物（全有機炭素（TOC）の量）にあつては1リットルにつき3ミリグラム以下、過マンガン酸カリウム消費量にあつては1リットルにつき10ミリグラム以下であること。 | 3 大腸菌群 | 1ミリリットルにつき1個以下であること。 | 5 大腸菌 | 検出されないこと。 | 4 レジオネラ属菌 | 100ミリリットルにつき10CFU未満であること。 | 6 レジオネラ属菌 | 100ミリリットルにつき10CFU未満であること。 |
| | 【原水 水質検査項目】 | | 【浴槽水 水質検査項目】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 色度 | 5度以下であること。 | 1 濁度 | 5度以下であること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 濁度 | 2度以下であること。 | 2 有機物（全有機炭素（TOC）の量）又は過マンガン酸カリウム消費量 | 有機物（全有機炭素（TOC）の量）にあつては1リットルにつき8ミリグラム以下、過マンガン酸カリウム消費量にあつては1リットルにつき25ミリグラム以下であること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 水素イオン濃度指数（pH） | 5.8以上8.6以下であること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 有機物（全有機炭素（TOC）の量）又は過マンガン酸カリウム消費量 | 有機物（全有機炭素（TOC）の量）にあつては1リットルにつき3ミリグラム以下、過マンガン酸カリウム消費量にあつては1リットルにつき10ミリグラム以下であること。 | 3 大腸菌群 | 1ミリリットルにつき1個以下であること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 大腸菌 | 検出されないこと。 | 4 レジオネラ属菌 | 100ミリリットルにつき10CFU未満であること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 レジオネラ属菌 | 100ミリリットルにつき10CFU未満であること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水質検査の結果は、検査の日から3年間保存するとともに、その結果が水質基準に適合しない場合は、直ちにその旨を知事に届け出ること | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 浴槽からあふれ出た湯水及び回収槽内の湯水を浴用に供しないこと ただし、オーバーフロー環水管及び回収槽の内部の清掃及び消毒を頻繁に行うとともに、レジオネラ属菌その他の病原菌が繁殖しないよう回収槽内の湯水の塩素消毒等を行う場合は、この限りでない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調節箱は、生物膜の状況を監視し、必要に応じ清掃し、及び消毒すること | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

旅館・ホテル営業の衛生措置の基準

| 項目 | 基 準 |
|----------|---|
| 浴場に関する措置 | 浴槽に気泡発生装置等が設置されている場合は、浴槽水には連日使用循環水を使用せず、内部に生物膜が形成されないよう適宜清掃し、及び消毒すること |
| | 打たせ湯及びシャワーには、循環水を使用しないこと |
| | 屋外に設置された浴槽の周囲に植栽がある場合は、浴槽に土が入り込まないように努めること |
| | 脱衣場等の入浴者の見やすい場所に、浴槽内に入る前には身体を洗うことその他公衆衛生に害を及ぼすおそれのある行為をしないよう注意を喚起する表示をすること |
| | 営業者は衛生管理を行うため、自主管理手引書及び点検表を作成して、従業者に周知徹底するとともに、営業者又は従業者のうちから日常の衛生管理に係る責任者を定めること |
| | 脱衣室には、衣類の保管ができる棚、脱衣箱又は脱衣籠を設け、毎月一回以上消毒薬をふりまくこと |